

# 幸若舞「日本紀」

舞で語り継ぐ日本神話

## 若柳恵華作品

今回は「水地〜SUICHI〜」を創作発表します。これは、2006年の第十五回創作自由市場で発表した第五話「夢」から第一・二・三話に続き、第四話目の作品となります。この作品を終えるときともに幸若舞「日本紀」全5話が完結します。

<http://www.nihonbuyou.co.jp>

## 今回の作品「水地～SUICHI～」の創作にあたり



織田信長が唄い舞ったことで有名な詞

思へばこの世は常の住み家にあらず  
草葉に置く白露、水に宿る月よりなほあやし  
金谷に花を詠じ、榮花は先立つて無常の風に誘はるる  
南楼の月を弄ぶ輩も 月に先立つて有為の雲にかくれり  
人間五十年、化天のうちを比べれば、夢幻の如くなり・・・

というのは幸若舞の「敦盛」ですが、私の本名である幸岩の姓のルーツでもあることを以前から聞いておりました。私の家には幸若舞舞曲集が昔から並んでおり、とても難しい詞や文章でございました。そんな中で日本神話の国づくりである「日本紀」がありました。これを創作してみようと創作自由市場という機会にて五年前から創らせていただいております。

※箏篋（くご）とは  
古代アッシリアで生まれた豎琴が、西方ではハープ、東方では箏篋（くご）と呼ばれる楽器の起源にあたります。シルクロードを經由して、日本には天平時代（710～794）中国から朝鮮半島の百濟を経て伝来し、東大寺の寺宝として正倉院におさめられました。

歌詞の中に「凡字固まりて土となる」というところが主と思い、急遽凡字を教えてくださいました。その中でも「大日の凡字のその上にい出来初めし国ならば」という歌詞がありましたので、大日の凡字を足で歩き描きながら踊ることにいたしました。あとは自然にあるもの、空・風・火・水・地を表現する凡字を象りながら踊ります。曲には幻の楽器で古代の和のハープとも言われます“くご”を選ばせていただきました。

古の楽器に会った踊りに、その時代が感じていただけたらと願いをこめて・・・

幸岩 知加子  
若柳 恵華

こちらが第1作品目からのご紹介になります。

### 第1話：IBUKI



2006年11月14日 第16回創作自由市場「IBUKI」  
（北沢タウンホール）

まだ天と地が分かれていない日本という国の始まり。選ばれたイザナギ・イザナミという二人の男と女の神が語り、天を開き、国を造ろうと矛を下ろしかき回します。

### 第2話：神実～SINMI～



2007年11月6日 第17回創作自由市場  
「神実～SHINMI～」（北沢タウンホール）

味覚をつくるとき、味は神の味覚であり、音も神の声であり、にがい・あまい・からい・酸っぱい・しょっぱいという五つの神の教えのお話です。

### 第3話：おのころ



2008年11月11日 第18回創作自由市場「おのころ」  
（北沢タウンホール）

神の使命により、島が生まれた。イザナギ鉾をかき探り、滴り落ちたるものにより自ら凝り固まった。これが自凝（おのころ）島となります。

### 第5話：夢



2006年3月28日 第15回創作自由市場「夢」  
（北沢タウンホール）

時代はながれ、幸若丸が登場します。幸若丸は平和を祈つての「舞」を創りました。その名にちなんで「幸若舞」と呼ばれ、現代の踊りに続きます。